

Doc. 1889

(13)

1889-1

上海ソ聯邦總領事館宛

海軍抗告ニ就イテノ陳述

私、發動機船「マイコープ」(登録總噸數一八二
 六八二噸)ノ船長アナトリー、ワシーリエヴィチ、
 レフチエンニ、ハ宜誓ノモトニ陳述スル、
 一九四一年一二月一四日ソ聯邦所有ノ發動機船「
 マイコープ」ハ乗員卅五名(高級船員十二名、普
 通船員廿三名)ト椰子泊一丸一應ノ積荷ヲ積載
 シテ、極東艦隊司令部ノ指圖ニ從ヒ私ノ指揮ノモ
 トニ、スラバヤ港(シヤバ島)ヨリウラヂヴアス
 トツクニ向ツテ出航シタ。

一九四一年一二月二〇日午前七時發動機船「マイ
 コープ」ハサランガ諸島南方三三哩ノ地點ヲ、東
 北一京ニ進路ヲ向ケテ航行シテキタ。凡ソ午前
 七時一〇分頃水平線上ニ單發ノ飛行機二機ハ一機
 ハ水上機他ハ陸上機)ガ現ハレ東方ヨリ我々ニ向
 ツテ接近シ來ツタ。國際法規ニ從ヒ、船舶ノ國籍
 ヲ明示スルタメ、船尾ニハソ聯邦國旗ガ揚揚サレ
 テキタ。七時一八分頃コノ二機ハ我々ノ船上空ヲ飛
 過ギ、一五〇乃至二〇〇米ノ高度ニテ上空ニ圓ヲ
 描キ給メ、
 機翼ト機尾トノ間ニ「URAN」本國籍ノ所以テアルコトヲ物
 語ル赤丸印ガ明瞭ニ見ラレタ。天候ハヨク見透シ

URAN TO ROOM 361
 361

1889-2

ノキク晴天デアリ、ソ聯旗ハ我が船尾ニ翻ヘツテ
キタ。ソシテコノソ聯旗ガハツキリト見ルコトガ
出来、發動機船「マイコーブ」ノ船橋兩側ニ登カ
レタ我が船名ガ明瞭ニ認知サレ得タコトハ、絶体
ニ疑ヒノナイ所デアル。

最初ノ攻撃

ソレニモ拘ラズ、午前七時四〇分、ソノ一機（陸
上機）ハ我が船ニ對シテ二個ノ爆弾ヲ投下シタ、
爆弾ハ「マイコーブ」船ノ近クニ、一個ハ一五米
離レテ、他ハ八米離レテ落下シタ。日本機ニヨル
「マイコーブ」船爆撃ノ無線通報ガ直チニ私ニヨ
ツテ、ウラヂヴオストツクニ送ラレ、同様ニ、タ
ラカン、ダバオニモヘウラヂヴオストツクニ中繼
ノ爲メニ送ラレタ。コノ爆撃ノ結果私ハスラバヤ
ヘノ方向ニ向ツテ引返ノ進路ヲトルコトニ決メタ、

第二回ノ攻撃

同朝凡ソー〇時頃、全ジ赤イ國ヲツケタ一機ガ再
ビ現ハレ魚雷ヲ投下シタガ、ソレハ私ノ處置シタ
運動（船ハ急速ニ左ニ廻轉サレタ）ノ結果船ニハ
命中セズ、船尾ヲ通過シタ。
尙、數分経テ、赤イ國ヲツケタ双發日本爆撃機（
陸上機）三機ガ現ハレ、我が船ヲ爆撃シ始メタ。

1889-3

爆彈ハ全ク船ニ接シテ落下シ、其ノ結果船ハ多大ノ被害、損傷ヲ蒙ツタ。午前一〇時カラ正午迄ノ間、日本爆撃機ハ間断ナク我々ヲ攻撃シ、約一二個ノ爆彈ヲ我ガ船ニ投下シタ。コノ恐怖ノ一二時間ノ間、私ハ落下スル爆彈ヲ避ケル可ク断エズ術策シタ、ソシテ私ノ判断ニヨルト其ノ爆彈ハ我ガ進路ヲ遮断セントスル爆撃機ガ約一〇〇〇米ノ高度カラ投下シタモノデアル。飛行機ガ爆彈ヲ投下スルノニ、適當ナ位置ヲ占メタト見タ時、私ハ直チニ、船ノ位置ヲ換エタノデ多クノ場合、飛行機ハ爆彈ヲ投下スルコトガ出来ズ、旋回シ再ビ攻撃シナケレバナラナカッタ。

爆撃ハ凡ソ一時間半程續イタ。一一時半頃爆彈約一二個ヲ投下スルト、コレ等ノ飛行機ハ降下シテ、二五分間約二〇〇米ノ高度ヨリ我ガ船ヲ機関銃射撃シタ。射撃中飛行機ハ我々ノ上ヲ船舷ニ沿ツテ飛過シツツ、我ガ進路ヲ飛翔シタ。即チ二回ノ攻撃ハ午前一一時五五分迄約二時間續イタ。二回目ノ本船爆撃ノ開始ト共ニ、私ハ日本飛行機ニヨツテ開始サレタ爆撃カラ本船遭難ノ場合ニ、乗組員救助ノ目的デミンダナオ島ニ向ツテ北方へ回航セネバナラナカッタ。

1889-4

第三回ノ攻撃

同日午后二時半頃、同型ノ同標敵ヲツケタ日本爆撃機四機ガ三度目船上ニ現ラハレ、二〇個ニ及ブ爆弾ヲ投下シタ。コノ爆撃中ニ本船ハ重大ナ損害ヲ受ケタ、即チ無線室ト舵手室ニ直撃弾ガ命中シ、同様ニ前橋ニモ命中シタ。兩室トモ完全ニ破壊サレ、無線室イ燃。至。チアノフ。ハ落命シタ。爆撃ハ船ニ非常ニ近クノ水中デモ破裂シ、爲メニ外側ノ被覆板ヲ損傷シ、船ノ吃水線下ニ漏口ヲ生ジタ。

今回ノ爆撃ハ二時三〇分カラ、飛行機ガ去ツタ、五時迄(十二月廿日)續イタ。

一九四一年一月二〇日午前十時頃、我が船ハ再島以南岸を横キ村爆撃西蒙区墮ノ地籍機投銷時因ルニ、
諸シ近乗組員下生命ヲ救助シ、余計ナ犠牲ヲ避ケ我爲幹マ我乗員ト一部即チ負傷者ヤ當直ニ差支ヘノ無イ他ノ乗組員(婦人ヲ含ム)ハ海岸ニ移サレタ。

第四回ノ攻撃

一九四一年一月二一日午前九時頃、我が船ハ再ビ日本飛行機ニヨル爆撃ヲ蒙ツタ、飛行機ハ半時間ノ間アマリ高クナイ高度カラ、凡ソ九個ノ爆弾

1889-5

ヲ船ノ近クニ投下シタ。

私ト幹部ト乗組員トニヨツテ行ハレタ船ノ検査ノ結果、一九四一年一月二一日ノ晝過ぎニ、破壊サレタ舵手室ニ於イテ日本ノ爆彈ノ安定装置ガ發見サレタ。上記ノ安定装置ニハ、四角バツタ日本文字ト九六トアラビヤ數字デ番號ガ記入サレテアリ、外面ハ色ノツイタ小竊ノアル鼠色デ、内側ハ赤イ鉛丹デ塗裝サレテアツタ。安定装置ノ外側ニハ、其ノ安定装置ヨリ短イ四ツノ「穂先」ガ附イテキタ。

同様ナ安定装置ハ橋ニモハマリ込ンデキタ。此ノ検査デ「マイコープ」號ハ日本飛行機ニヨル爆撃ノ結果、次ノ如キ損傷ヲ蒙ツタコトガ判明シタ。

(イ) 船体ニハ、後部カラト前部カラ大キナ裂口ガデキタコト。

(ロ) タンク、一號、9、10、11、12ノ各々ニ漏口ガデキタコト。

(ハ) 左右炭庫ト右石炭庫ノ裂口

(ニ) 船体ノ損傷ト機械部ノ水漏レ。

(ホ) 無線室ト舵手室ノ破壊

(ヘ) 船橋下ニアル幹部室、技術員室ノ一部、「サロ

ン」及ビ普通船員室ノ破壊、

(ト) 甲板貨物用導管ガ破片ニヨツテ貫通サレ、ソノ

1889-6

右側ガ被損シタ。ヘ此ノ導管ハ液停貨物ノ汲ミ
上ゲ、汲ミ出シニ用ヒラレテキタ。

(チ) 主要機械ノ運動ト心算ノ誤ガ由ゲラレ、導管ノ
一部ハ裂カレ、空氣囊ガハズレタ。

(リ) 船首ノポンプ室ニ浮水シ、ポンプモ役ニ立タナ
クナツタ。

(ヌ) 左貨物用ポンプト警隊用ポンプハ益ク復立タナ
クナツタ。

(ル) 右貨物用ポンプハ損傷シテ居リ然ルベク運轉ス
ルコトガ出来テカツタ。即チ我々ハ此ノポンプ
デハ、水ガ船ノ中ニ浸入スルヤウナ遠度デ船カ
ラ水ヲ汲ミ出スコトハ不可能デアツタ。而シテ
以上列舉シタ爆撃ノ結果本船ノ蒙ツタ傷口ガ原
因シテ船ハ逐次水ニ浸サレ、總ベテノ我が排水
用器具及ビポンプガ爆撃ニヨツテ破損サレタノ
デ船ノ浮力ヲ保持スルコトハ益々困難ニナツタ。
一九〇一年一月二一日夕間ト共ニ私ハ海岸ニキ
タ乗組員ニ船ニ歸ルヨウ命令シタ。而ル後、同日
午後八時頃、「マイコープ」號ハ幸フジテ自力デ、
風波カラヨリ良ク耐ラレテキルサランガニ海ニ移
動シタ。ソコデ我々ハ、マカル村沖ニ投錨シタ。

上記述べタ如ク、船ノ爆撃中我が無線士イエ・イ・
デアノフハ死亡シタ、無線士ノ死体ハ海岸ニ移サ

レ一二月二〇日夕刻ミンダナオ島ノブトラキ村近
 クニ埋葬サレタ。其ノ他六名ノ乗組員ガ負傷シタ。
 (一)等運轉手、ブルイズギン、乗員、フリーミン・
 ハイブラフマーノフ・ゴレレンコ・セドフ・ベル
 デニコフ、
 全負傷者ハ我ガ船醫クラスナクイトウスキーノ應
 急治療ヲ受ケタ。一九四一年一二月二二日負傷者
 達ハ再ビ爾後ノ治療ノ爲ニ海岸ニ移サレタ。彼等
 ノ中二人ハ地境官憲ニヨツテ、ラガオ病院ニ送ラ
 レタ。同時ニ當時當直ニ差支ヘノナイ乗員ノ一部
 モ上陸シタ。

日本飛行機ニヨル爆撃ニヨツテ發動機船「マイコ
 ーブル」ニ加ヘラレタ上記列擧シタ損傷ノ結果、一
 九四一年一二月二六日夜二時頃、マカル村附近ニ
 テ船ハ完全ニ沈没シタ。本船ハ主要機械ガ役ニ立
 タヌ程損傷ヲ受ケタノデ、淺瀬ニ乗り上ゲルコト
 ハ不可能デアツタ。船ニ留ツテキタ乗組員ノ一部
 ハ一九四一年一二月二六日夜一時頃我々が沈ムト
 云フコトヲ認メタ時ボートニ移サレタ。「マイコ
 ーブル」號沈没後、我々ハソレヨリ先ニ上陸シテキ
 タ仲間ノ所へ彙集シタ。

船ト共ニ次ノモノガ完全ニ喪失シタ。

- (I) 液体椰子油ノ貨物、總量一八九四一噸
 (2) 「バンカー」、モーター石油 總量一〇〇噸

1889-8

總目録 四 應

- (3) 潤滑油
(4) 船ノ目錄備品及ビ設備品、
(5) 乘組員ノ各自ノ所有品ノ大部分。

直撃彈ニヨリ衝撃ニヨツテ破壊サレタモノ、

(イ) 舵手室ト航海日誌、其ノ時一等運轉手ブルイ
ズギンハ自己ノ任務遂行ノ際ニ負傷ス。

(ロ) 舵手室ニ隣リ合ツテキタ無線室ト無線日誌モ
完全ニ破壊サレ、コノ爆彈ニヨツテ無線士ヂ
アノフハ自己ノ任務遂行中落命ス。

次ノモノハ救出サレタ。

(I) 航海機關日誌

(2) 航海用公文書

(3) 貨物用書類(船荷證券、載貨目錄、積荷許可

證ト運轉證明書)

(4) 金錢出納結及ビ會計報告書

(5) 船時計三ヶ及ビ秒時計一ヶ

「マイコーブ」號乘組員ハボートカラモロ族ノ
マカル村附近ニ上陸シテ、一九四一年一月二六
日午前三時カラ一九四二年五月三十一日迄ミンダナ
オ島ニ居タ。コノ部落ハ極メテ小サク、家ハ無ク
只柵材ノ上ニ地上二―三米ノ所ニ揚ゲラレタ竹ノ
小舎ガアツタ。マカル村ニハ二日間居リ、小サナ
コトバト町ニハ五日間、小町イリガンニ三日間、

ソレカラ小町マライバライニ移轉シ、其處テ日本政府ニヨツテマニラニ送ラレル迄滞在シテキタ。發動機船「マイコープ」號ノ沈没ニ關シテミンダオ島ニ於テ何等カノ公人ト海軍抗告ニ就イテノ行動ヲ爲スコトハ、其ノ頃コノ地區ニ於テ起ツタ日米間ノ軍事行動ガ原因シテ、可能性ハ無カツタ。ミンダオ島ノ地方ノ小町マライバライニ於ケル米國軍營局ハ私ニソビエト發動機船「マイコープ」沈没ノ電報ヲアメリカ合衆國ワシントン陸軍ソ聯大使宛打電スル事ノミ許可シタ。而シテコレハ一九四二年一月二四日實行サレタ。

一九四二年五月三十一日「マイコープ」船乗組員ハ日本官憲ニ依リ險送船ニテマニラヘ護送サレタ。當地ニ我々ハ一九四二年六月四日ニ到着シタ。マニラニ於テ我々ハ引キ續キ一九四二年六月四日ヨリ一七日迄日本官憲ノ護衛ノモトニアツタ。私同様全乗組員モ住宅ノ場所ヨリ外へ出カケルコトガ許サレナカツタノデ、私ハマニラニ於テモ海軍抗告ニ關シテノ行動ヲ起スコトガ出来ナカツタ。

一九四二年六月一七日日本官憲ハ我々ヲ軍用險送船「タカオカ丸」テ上海ニ送ツタ。「タカオカ丸」ハ一九四二年六月二五日ニ上海ニ到着シタ。

私ト「マイコープ」全乗組員ハ上海ニ於テ四川路

ニアル日本海軍兵舎ニ一九四二年六月二五日カラ
 三〇日迄ノ間保護サレテキタ。兵舎ニ滞在中「マ
 イコーブ」號沈没ニ關シテ日本領事館ノ役人ニ陳
 述スルヤウ我々全部ガ強要サレタ。コノ供述後一
 九四二年六月三〇日午後五時三〇分全乗組員ハ上
 海陸割ソ聯邦領事代表イ・ベ・シヤリコフ・ノモ
 トニ引渡サレタ。

今コソ、私ニ取ツテ海軍抗告ノ抗訴ヲ行ヒ、且ツ
 我ガソ聯邦發動機船、「マイコーブ」及ビ其ノ貨
 物ノ沈没ニ關シテ餘マストロバキ未報告ガ疲滯ス
 ル機會ガ始メテ與ベラレタ。ハチ、
 從ツテ、私ニ「マイコーブ」號、船長レフチエンコ
 ア・ベ・ハ本營ヲ以テ海軍抗告ヲ宜シ、發動機船
 「マイコーブ」及ビ其ノ貨物ノ沈没ニ關シテ、
 私、或ハ本船ノ所有者違ニ對シテ提起サレルデア
 ラウ總ベテノ請求權ヲ拒否スルモノデアアル。

レフチエンコ・ア・ヴ

發動機船「マイコーブ」船長

上海、一九四二年七月一日

私ノ列席ニ於イテ宜審ノモトニ署名サレル
 上海市、一九四二年七月二日

シヤリコフ・イ・ベ

上海陸割ソ聯邦領事代表

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1889

12 June 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Statement of former captain, LEVCHENKO, A., V., of Diesel ship "MAIKOP" to General Consul of U.S.S.R. in Shanghai re protest against sinking of this ship

Date: 1 July 42 Original () Copy (x)
Language: Russian-English

Has it been translated: Yes () No (x)
Has it been photostated? Yes () No (x)

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)
U.S. Chief Counsel for Prosecution

SOURCE OF ORIGINAL: Russian Division

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Violation of
Neutrality Treaty by Japan

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references)

Protest of LEVCHENKO, A. V., former captain of Diesel ship "MAIKOP" against bombing and sinking of this ship by Japanese planes while ship was enroute from SOERBAJA to VLADIVOSTOK. Ship was clearly marked, yet was subjected to four bombing and machine gun attacks beginning on 20 Dec. 41 and despite heroic efforts of crew, sank 26 Dec. near MAKAR on MINDANAO Island. Due to detention, Marine Protest could not be lodged until 1 July 42.

Analyst: 2d Lt. Blumhagen

Doc. No. 1889

CHARGE OUT SLIP

DATE SEP 17 1946

EVIDENTIARY DOC. NO. 1889

*Copy of Protest - Levenko,
Capt. - "Marksp" July 42*

TRIAL BRIEF _____

EXHIBIT NO. _____

BACKGROUND DOC. NO. _____

SIGNATURE Col. Taranenko

ROOM NO. 354

*64.
823
in Court*

Ex 823

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1889

Date 12 June 46

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: *Statement of former captain, LEVCHEVSKO, A. V., of Diesel ship "MAIKOP" to General consul of U.S.S.R. in SHANGHAI re protest against sinking of this ship.*

Date: 1 July 42

Original () Copy (x)

Language: *Russian English*

Has it been translated? Yes () No (x)
Has it been photostated? Yes () No (x)

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)

U.S. Chief Counsel for Prosecution

SOURCE OF ORIGINAL: *Russian Division*

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: *Violation of Neutrality Treaty by Japan.*

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Protest of LEVCHEVSKO, A. V., former captain of Diesel ship "MAIKOP" against bombing and sinking of this ship by Japanese planes while ship was enroute from SOERABAYA to VLADIVOSTOK. Ship was clearly marked, yet was subjected to four bombing and machine gun attacks beginning on 20 Dec. 41 and despite heroic efforts of crew, sank 26 Dec. near MAKAR on MINDANAO Island. Due to detention, Marine Protest could not be lodged until 1 July 42.

Analyst: *Lt. Blumhagen*
MAN

Doc. No.